

宮城県中学校総合体育大会軟式野球競技 確認事項

1 ユニフォームの着用について

- (1) 見苦しくないように着用する。
 - ① 上着の裾を出さず、たるませずベルトが見えるように着用する。
 - ② パンツの裾はストッキングのふくらはぎの部分が見えるまで上げる。
 - ③ 肩の部分をたくし上げない。
- (2) ユニフォームの上着に個人名は入れない。また、ノースリーブの上着は認めない。
- (3) ストッキングについて次の通りとする。
 - ① 危険防止のため、アンダーソックスとストッキングの両方を着用する。
 - ② ハイカットストッキングは禁止する。

公益財団法人全日本軟式野球連盟規程細則には、「ユニフォームの袖の長さは両袖同一で、左袖に日本字またはローマ字による都道府県名を必ずつけなければならない。また、都道府県に関連するものをつけることができる。なお、右袖には社章、商章、クラブのマスコット等をつけることは差支えない」と記されている。本大会では特に規制はしないがこの規程に沿ったものを推奨する。

2 ユニフォーム以外の用具・装具等について

- (1) 用具・装具の使用は、以下に定められたもの以外、公認野球規則及び競技者必携に定められたものを使用しなければならない。また、特に記載のない用具・装具等については原則使用禁止とする。
- (2) 使用を禁止するもの
 - ① リストバンドは使用できない。
 - ② 滑り止めスプレーは使用できない。
 - ③ 走者が出塁時に、一回り大きいサイズの走塁用手袋は使用できない。
 - ④ マスコットバット、バットリング、鉄棒、公認球以外のボール等、試合で使用しないものの球場内への持ち込みは禁止する。
 - ⑤ レッグガード・エルボーガード・手甲ガード等は原則使用禁止とする。事情により使用を希望する場合は、試合前（打順表提出時）に主催者・審判員に申し出て許可を得る。
- (3) 使用できるが、色等の指定があるもの
 - ① 打者・走者・守備時の野手の手袋の使用を認める。色は白または黒の一色とすることが望ましい。手袋とサポーターの一体型のものの使用も認める。
 - ② ヘルメットはSGマークのついたもので、チームとして色やデザインは同一のものを着用する。また、安全性が確保できないと判断されたもの（例：保護パット不装着、ひび割れ等）は使用できない。
 - ③ スパイクのチーム内（監督・コーチ等も含めて）での甲被カラーは、白または黒の一色とし、チーム内での混在を認める。
 - ④ 木製バットは、黒色・ダークブラウン系、赤褐色系及び淡黄色系とし、木目を目視できるものとする。ただし、拙劣な塗装技術を用いていないものとする。
 - ⑤ アームスリーブは医療目的に限り、サポーターに準じて使用を認める。ただし、アンダーシャツと同色とする。

- (4) 試合前（打順表提出時）に主催者・審判員に申し出て許可を得た場合に使用できるもの
- ① 医療目的でのサポーター（手首や指を固定，保護する目的のもの）の使用は認める。ただし，色は白・黒・ベージュの色のものとする。
 - ② 健康上の理由及び球場の条件によって，サングラスの使用を認める。フレームは，黒・紺・グレーの色のもので，レンズはスモークを基調にした著しく反射がしないものとする。

3 その他の事項

- (1) テントの設置については，スタンド（各ベンチより外野側は設営可）のみとし，それ以外へのテントの設営は禁止する。
- (2) 試合前のグラウンドでのウォームアップに関して以下の事項を守ること。
 - ① 登録メンバー（選手，監督，コーチ）と補助員3名以内のみとする。
 - ② ユニフォーム着用者以外のグラウンド内への立ち入りを禁止する。ただし，第1試合チームは打順表の交換まではチームで統一されたTシャツも可とする（アンダーシャツのみは禁止）。
 - ③ グラウンドに出る際は，必ず着帽する。
- (3) 補助員の服装は選手と同じユニフォームとするが，準備（用意）できない場合は練習用ユニフォームまたはチームTシャツでもよい。
- (4) 教員が平服でベンチに入る場合は，緊急時対応（怪我等）以外，グラウンドに出ることができない。ノック等でグラウンドに出る場合は，ユニフォームを着用すること。

4 野球規則，競技者必携に記載があるが，もう一度確認してもらいたいこと

- (1) 7回を完了して同点の場合，延長戦は行わず，タイブレイク方式を用いて勝敗が決するまでこれを継続する。

<タイブレイク方式>

継続打順で，前回の最終打者を一塁走者とし，二塁の走者は順次前の打者とする。すなわち，0アウト1・2塁の状態にして1イニング行い，得点の多いチームを勝ちとする。勝敗が決しない場合は，さらに継続打順で得点差が生じるまでこれを繰り返す。なお，規定によって認められる選手の交代は許される。

- (2) 投手が手首や腕にサポーターなどを使用することは禁止する。テーピングについても投球時にボールに触れる部分と露出する部分については禁止する。
- (3) 試合前のグラウンドでのハーフ打撃，フリー打撃は禁止し，トスパッティングまでとする。
- (4) 次の試合の先発バッテリーに限り打順表の交換後，試合に差し支えないようにブルペンでの投球練習を許可する。
- (5) 選手交代の申し出は，監督が行う。
- (6) コーチは試合前のノックを行うとき以外は，ベンチから出ない。
- (7) 熱中症予防のため，守備時間が長引いた場合，イニングの途中でも給水タイムを設ける（20分を目安に本部で判断し，打者のプレイ完了後に給水タイムを設ける）。
- (8) 投手の投球数は1日100球以内とする（タイブレイク方式も含める）。ただし，投球数が100球に達した打者までは100球を超えて投球してもよい。なお，ダブルヘッダーとなった場合も本規定を適用する。
- (9) 用具・装具については，試合前に審判員または大会役員の確認に応じなければならない。点検内容は監督会議で提示する。なお，用具・装具で指摘を受けた時に補修することは認める。その場合，補修完了後，再度点検を受ける必要がある。